

「子どもと一緒に考える中学修了後の進路マップ一覧」

【I. 高校進学（国内）】

列1	進路の種類	向いている子	費用感	メリット	デメリット
1	全日制高校（普通科）	基礎学力があり進学意欲がある子	公立で年間5～15万円、私立で40～80万円程度	進学・就職に対応／バランスが良い	競争・進度に合わないとつらい
2	全日制高校（専門学科）	手に職をつけたい子・興味が明確な子	同上	専門知識が身に付き就職に強い	興味が変わると合わなくなる可能性
3	全日制高校（総合学科）	自分の学びをデザインしたい子	同上	多様な学び方ができ進路の幅が広い	自己管理力が必要
4	定時制高校	昼間働きたい子・生活リズムに配慮が必要な子	公立3～7万円／私立20～50万円	働きながら学べる／社会性が育つ	生活リズム管理が難しい場合がある
5	通信制高校	自分のペースで学びたい子・不登校経験のある子	年間5～30万円＋サポート校別途	柔軟に学べる／個別支援が受けやすい	孤立しやすい／自己管理が必要

【II. 高校留学】

列1	進路の種類	向いている子	費用感	メリット	デメリット
6	海外の現地高校	英語環境に飛び込みたい子・柔軟な子	年間100～500万円	語学力と国際感覚が身につく	文化・言語・費用への適応が必要

7	国際バカロレア (IB) 校	探究型学習が好き・論理的思考力がある子	日本：約100万円／海外：200～500万円	世界基準の教育／大学進学に強い	入試難関／課題多くハード
8	ボーディングスクール	自立心・学力・協調性を育てるたい子	年間300～800万円（奨学金あり）	人格形成／グローバル人材に	高コスト／親元を離れる負担
9	オンライン国際高校	在宅で海外式教育を受けたい子	年間20～80万円	場所を問わず学べる／柔軟	モチベーション維持が課題

【III. 民間・オルタナティブ教育】

列1	進路の種類	向いている子	費用感	メリット	デメリット
10	フリースクール高等部	不登校経験がある子／自発的な学びができる子	月2～5万円	個別対応／安心して学べる	学歴保証が弱い場合あり
11	デモクラティックスクール	自己決定で学びたい子／対話力ある子	月3～8万円	責任感・協調性・自由が育つ	学力保障が不安定
12	ホームスクーリング	親の協力があり自律学習ができる子	教材・指導費：数千円～数万円／月	自由な学び／家族の絆が深まる	社会性・学歴・進学対策に課題あり

【IV. 実践・職業ルート】

列1	進路の種類	向いている子	費用感	メリット	デメリット
13	高等専門学校（高専）	理系思考・ものづくりが好きな子	年間20～50万円（国立）	実力がつき就職に強い	進学には制限あり／専門特化

14	職業訓練校・技術専門校	手に職をつけて早く働きたい子	入学金+数万円～	資格取得・実務即戦力	分野が限定される／進学不可
15	家業・弟子入り	強い興味と覚悟がある子	原則無料（報酬ありも）	実地で学べる／費用負担少	学歴評価なし／合う指導者必要
16	若者自立支援プログラム	社会的支援が必要な子	無料（公費）	包括的サポートあり	地域・内容により差が大き

☒ 【V. 芸術・スポーツ・専門分野】

列1	進路の種類	向いている子	費用感	メリット	デメリット
17	芸術・音楽系高等課程	表現や感性に優れた子	年間100～200万円	専門性を磨ける／舞台あり	高額／進路が不安定
18	スポーツ系（養成校等）	運動能力が高く目標がある子	年間50～150万円	技術向上／プロ育成ルート	競争激しく挫折リスクあり
19	eスポーツ・プログラミング	IT分野に強い関心がある子	年間60～150万円	現代に即したスキル習得	将来性に未知数な部分も

☒ 【VI. 自宅学習・療養・準備】

列1	進路の種類	向いている子	費用感	メリット	デメリット
20	高卒認定試験	自学できる子・再起を図りたい子	数万円（受験+教材）	学歴取得が可能／進学可	モチベーション維持が困難なことも

21 在宅教育	病気・障害・心理的課題がある子	訪問教育は公費対象	無理なく学び継続できる	孤立しやすい／進路選択が 限定的
22 準備期間	今は立ち止まりたい・再出発したい子	支援：月数万円程度	自分を見つめ直せる時間	長期化すると不安定化リスクあり

【補足：組み合わせ型進路】

列1	進路の種類	向いている子	費用感	メリット	デメリット
23	通信×フリースクール ×留学など	自分に合う道を探したい柔軟な子	年間20～150万円程度	柔軟な学び設計／特化した 経験が積める	組み合わせの管理と親の理解が必要